

よりよく生きる

2年生道徳授業の紹介「制服は誰のもの」(読み物資料)

【資料のあらすじ】

生徒会長である主人公「僕」は、校長先生から制服リニューアルについて生徒みんなでアイディアを出してほしいと提案を受け、学校内外にアンケートを実施するも、多様な意見を前に途方に暮れてしまう。「制服は誰のものだろう?」という言葉の思い出し、もう一度話し合いを行い、制服とは先輩や地域の人などの思いが詰まった、後輩たちに贈る「目に見える校風」であることに気付く。その後、議論に議論を重ねて意見をまとめ、生徒会からの提案書を校長先生に手渡した。



生徒会からの提案書には、「僕」たちのどんな思いが込められているか? (生徒の意見)

- ・生徒が卒業するために、大切に使ってほしい。生徒、保護者、地域の方が賛成するような制服になってほしい。みんなの意見を取り入れたから、みんなに気に入ってほしい。
- ・若葉中学校の生徒として、いろいろな面での行動に期待しているよ。
- ・若葉中学校らしさを残しつつ、新しい制服にすることで、みんなの気持ちも明るくなってほしい。新入生に、若葉中を好きになってほしい。
- ・男女差別をなくして、それぞれが着たい制服を選べるようにする。

学校生活をよりよくするためには、どんな考え方が大切だろう?

- ・時代に合わせて、一人ひとりを大切にするような校則やルールに改善しつつ、その学校らしさも残すように、「未来」について前向きに考えていくことが大切。
- ・「自分が自分が」になってしまったら、納得する人が少なくなってしまうから、周りの人を見てどう思うかを考えるとよいと思います。
- ・何かを変えた後、生徒・先生・地域の人などがどんな気持ちになるかを想像する。
- ・多様性を認めているか、変わることで嫌がる人はいないか、自分勝手になっていないか、ほかの人の意見も聞いているかなどを考える。
- ・自分たちだけではなく、これからの新入生も過ごしやすいようにすることを考える。
- ・自分のことだと自覚して取り組むこと。他人任せにしないこと。個人の利益より、集団を優先すること。

中学2年生になると、部活動や学校行事などで中心的な役割を果たす機会が増え、学校や集団への所属意識が高まる時期です。そして学校は、生徒にとって集団生活の中心にあり、それぞれの学校にある校風は、先輩たちが築いてきたものを後輩たちが受け継ぎ、よりよい校風へと発展させていくことが大切になります。自らが校風を受け継ぐ一人であるという自覚を持ち、多様な人が関わる学校生活が充実するように活動することで、よりよい校風を築くことができ、それが将来的な集団生活の充実につながっていくのではないかと思います。